

【実践報告】

「保育実習及び保育実習指導」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 上 村 加 奈
准教授 牧 亮 太
講師 平 山 裕 基

1 はじめに

国家資格「保育士」の取得を希望する学生は本学科指定の科目を段階的に履修する。保育士としての使命を自覚し、職務内容について理解を深め、保育に関する実践的能力を育成することを目的としている。2024年度は幼児教育コース2年次生36名、3年次生39名を対象に指導にあたった。幼児教育コースの学生は幼稚園教諭一種免許状取得の学修にも取り組んでいる。

これまでも、幼稚園実習担当者と連携を図りながら効果的な学びとなるよう指導内容並びに指導方法を模索してきた。昨年度から導入した実習評価票の効果を確認し、学生が自己課題を把握して克服に向けて取り組む方策の検討に取り組んだ。

2 実施のスケジュール

科目	単位	開講期	主な内容
保育実習指導ⅠA	必修 1単位	2年後期	実習の目的や意義、児童福祉施設（保育所・施設）の理解、子どもの人権、プライバシーの保護と守秘義務、保育士の仕事と役割の理解など基礎的な学修を行う。
保育実習指導ⅠB	必修 1単位	3年前期	実習における倫理・個人情報への取扱い・心がまえや健康管理を実践的に学ぶ。観察、記録、を具体的に理解し、実習の目標と課題を明確にする。
保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設）	必修 各2単位	3年 8－9月	保育所及びその他の児童福祉施設において各10日間の実習を行う。
保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	選必 1単位	3年後期	実践や事例を基に、保育の観察、記録、保育の改善について理解する。 保育を総合的に理解するための目標と課題を設定する。
保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	選必 2単位	3年 2－3月	保育所又はその他の児童福祉施設において、10日間の実習を行う。

保育士履修説明会（1年4月）並びに保育実習指導ⅠA履修前指導を実施し、保育士資格取得の意識と心がまえの涵養に努めている。

3 実施の概要

(1) 保育士履修説明会：1年生対象

教職センター主催の保育士履修説明会において、保育士に求められている社会的な役割と倫理に続き、教育学科のカリキュラムの特徴と保育士養成課程の説明を行った。入学直後に、保育士について正しく理解したうえで取得する資格を選択すること、見通しをもって学修に臨むことをねらいとした。本説明会への出席を保育原理（1年後期科目）の履修要件とし、科目担当教員が保育士科目の関連や実習とのつながり、保育士職に求められる知識や資質・能力について指導した。開始時間前に参集し熱心に説明を聞く姿から、意識の高さが確認できた。欠席者には別日程で実施した。欠席理由を把握し、資格取得に向けた課題の有無を確認した。参加者のレポートには、保育士職の職域の広さや身に付けなければいけない内容について認識を新たにし、学修に臨む意識を持った等の記載があった。

(2) 保育実習指導ⅠA履修前指導：2年生対象

6月上旬に後期科目の保育実習指導ⅠAに向けた履修前指導を実施した。幼児教育コースの対象学生は36名で、保育実習Ⅰ（施設）に関する基礎調査と、保育実習Ⅰ（保育所）に関する希望園調査を行った。その後、それぞれの調査結果に基づいた実習先の検討、調整を行った。

(3) 保育実習指導ⅠA：2年生対象

保育実習指導ⅠAでは、昨年度と同様に人間福祉学科と合同による全8回の授業を実施した。第1回では、保育実習の概要や実習要件などについてガイダンスを行い、第2回では実習施設（保育所）の内諾手続に関する説明を行った。第3回では、保育所の役割や保育士の仕事について理解を深める内容として授業を実施した。

今年度の大きな変更点として、第4回に広島県庁健康福祉局安心保育推進課の協力のもと、保育士養成施設の学生と園長・保育士との交流会（出前授業）を実施した。本交流会では、現場で働く園長・保育士の話を聞くことで、保育現場の実情を知り、初めての保育実習に向けた具体的なイメージや課題意識を持つことを目的とした。

第5回と第6回では、施設実習に関する学修として、施設の役割と機能、入所者の理解、施設保育士の仕事の理解を深めた。実習に向けた基礎的な内容に加え、保育士として必要な倫理観や守秘義務についても指導を行った。また、実習先の内諾に関する説明は段階的に行い、保育所は10月以降（第2回）、施設は11月以降（第7回）に実施した。

保育実習指導ⅠAでは、履修前指導から次年度の保育実習指導ⅠBへの円滑な接続を目指し、学生が実践的なスキルと倫理観を身に付けられるよう努めた。

(4) 保育実習指導ⅠB：3年生対象

本科目では、保育実習指導ⅠAを踏まえ保育実習Ⅰ実施に向けた学修内容としている。①実習における倫理と心構え②実習での学びの具体的理解③目標と課題の設定④日誌の書き方の理解が主な内容である。

実習の倫理と心がまえについては全国保育士倫理綱領を用い、個人情報取扱いについては1年次「幼児の理解」、2年次「幼児教育の体験活動」に続いて保育実習指導においても一貫した内容で指導した。今年度は授業内で小テストを実施して、学生本人と授業者が理解度を確認できるようにした。

「保育実習の記録」の「実習園の概要」様式を基に、公開されている情報を収集して実習園の概要を把握することを課した。把握できなかった内容から事前訪問での質問項目を考えさせ、能動的に実習園理解に取り組んだ。

実習園の概要を踏まえ、目標と課題を設定した。実習指導者講習会の資料を活用して、実習内容と10日間の流れを把握させた。保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）それぞれの評価項目と評価のポイントから、到達目標を具体的に確認しながら各自が目標に対する課題を設定した。施設実習は種別ごとに指導し、学ぶ内容を明確にした。目標と課題を添削し、再指導を要する学生には個別指導を実施した。

日誌の書き方は、保育所は2年次までの実地観察及び体験活動の学修を想起させ、保育所実習における日誌の書き方を指導した。幼稚園と保育所それぞれの種別理解とともに、2年次までの学修に積み上げた学びになっていた。施設実習における日誌は種別によって違いがあるため、事例を示して重点項目を伝え、事後学修でも各自が書き方の復習を可能にした。

健康管理として看護師を招聘し、感染症に関する知識と感染予防対策の指導をした。新型コロナウイルスに重点を置いた昨年度までの指導から、流行している疾病と熱中症対策の内容とした。

(5) 保育実習Ⅰ（保育所）・保育実習Ⅰ（施設）：3年生対象

初めての保育実習となるため、不安を軽減し目的意識を持って臨めるようにした。しかし、例年以上の病欠数であった。台風により実習実施が困難になるケースもあったが、学生は事前学修を踏まえた報連相により、おおむね適切に対処できていた。実習先からの評価も全体的に高評価で、実習に臨む積極性や日誌の書き方で高い評価を得た学生がいた。一方で、個別課題が明確になった学生もあり事後学修につなげた。

実習後に個別事後考察報告書（エピソード記述形式）を作成し、目標と課題を基に学んだ内容を事例形式で書面にした。実習評価票の内容で各学生が自己評価を行い、評価開示面談を受ける。成果と課題を確認し、保育実習Ⅱの課題を明確にした。また、保育士職への意欲の変化も把握し資格取得に向けた取組を確認した。

(6) 保育実習指導Ⅱ・保育実習指導Ⅲ／保育実習Ⅱ・Ⅲ：3年生対象

保育士資格希望者が保育実習Ⅱを選択し、保育実習Ⅲは履修者なしであった。

保育実習指導Ⅱの目標は、「保育実習Ⅰ（保育所）」の目標達成に関する振り返り、これまでの学修内容の関連性を踏まえ、保育実践力を培う発展的目標を設定する。保育士の専門性と職業倫理について理解を深めることとした。

保育実習Ⅰ（保育所）終了後に作成した個別事後考察報告書を基に、グループ討議・資料作成・報告と意見交流を行った。各自が作成したレポートは、場面における子どもの理解に目を向け、実態を踏まえた援助を模索した記載となっており保育実習Ⅱの課題につながっていることが確認できた。

保育実習Ⅰ（保育所）と保育実習Ⅱを総合的に捉え、保育に対する課題や認識を明確にして目標と課題の設定に取り組んだ。保育実習Ⅱの評価票と評価のポイントを示しながら発展的な内容になるよう、グループ討議と意見交流を行った。実習日誌の書き方においても、保育実習Ⅰの振り返りをする中で、実習先での指導内容と、実習期間中の成長を確認するとともに、次に向けての課題を見付け出すことができていた。履修学生全員が10-11月に幼稚園実習を行う。種別の違いはあるが「目標と課題」、「実習の記録」などの書き方や記載内容において、幼稚園実習での経験を踏まえて深めることができるよう指導した。

保育実習指導ⅠBで得た知識の定着度を確認するために、保育士の倫理、個人情報取り扱い、実習の心がまえ等の小テストを実施した。学生は、小テストに取り組むことでこれまでの学びを振り返り、自身の定着度を確認することになる。授業内で誤答状況を確認して指導を行うことで、保育実習指導ⅠBを踏まえた理解につなげた。今年度の保育士の倫理に関しては、正答率が低い学生を対象に再テストを実施した。保育実習実施要件科目にも位置付けられているため、実習前学修内容の一定の理解度を担保した。

保育実習Ⅰにおいて、書類作成並びに検査への対応に関する課題を確認した。指示内容を確実に実践することは保育士に求められる能力であるため、学修記録に提出や課題の取組状況を記入する欄を設け、自己確認しながら指示された課題に取り組むこととしている。保育実習指導ⅠB時の取組を踏まえて、指示内容を正確に実践に移す学生が増えた。一方で、学生が抱える課題が浮き彫りになり、克服に向けて個別指導を実施した。

保育実習Ⅱは、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ罹患者の増加が予測される状況となった。看護師と連携して、感染予防対策を講じる疾病について具体的な指導を行った。

4 成果と課題

(1) 初年次教育と実習指導のつながり

保育士資格取得希望者は、1年次4月開催の保育士履修説明会から本学での学修を開始することとなる。保育原理（1年後期保育士必修科目・本説明会出席が履修要件）の授業担当者が、保育士履修説明会を保育原理の履修要件と位置付け、本説明会で理解したことを授業の学びにつなげる。入学時から学びの連続性を認識することで学修内容の深まりが期待できている。欠席者には別日の受講を課し、指導の徹底を図った。今年度は、保育実習指導を開始する前から授業の欠席状況等の学修状況を確認し、実態把握に努めた。授業担当者や担当チューターと情報を共有した。3年次には、教育実習と保育実習あわせて50日間の実習が計画されている。初初年次からの指導体制を整え、実習の成果を確保したい。

実習に対応する健康度は、学生生活のそれとは異なる。入学時から実習における健康管理を理解し、健康診断受診並びに実習時の健康に関する報告に関する指導体制づくりにも取り組んでいる。

(2) 実習間の連携

保育実習と教育実習（幼）の実習科目による違いを明確にしながら、実習の成果と課題については連続して捉えられるように取り組んできた。教育実習（幼稚園）と保育実習Ⅰ（保育所）・保育実習Ⅱの評価票を同時改訂して3年目となる。実習の自己評価と評価開示面談において、成果の理由と課題内容が明確になる学生が増加傾向にある。学生にとって、段階的に学んでいることが認識しやすいと分かる。専門職への意欲を問う項目は、進路選択の手がかりとなっていることが確認できた。

教育課程の改編により、次年度は保育実習Ⅰ終了後に20日間の教育実習が実施され、3か月後に保育実習Ⅱが予定されている。今年度までに取り組んだ、実習間連携の仕組みを活用していきたい。

今年度から実習生個人票を導入し、教育課程上の実習歴を記す欄を設けた。実習先から実習経験を把握した指導が受けられる情報提供の内容とした。次年度以降も効果的な活用を検討していく。

(3) 実習経験と就職活動

実習での経験や学びを基に、教員に相談しながら進路選択している。チューターやゼミ担当教員との面談に加え、実習ごとの評価開示面談も進路選択の一役を担っている。そこで、面談担当教員決定時に、複数の教員と面談できるように工夫している。各教員が専門性や特性を生かして、指導や助言に当たることで、視野を広げ多様な考えから自己決定できるようにしている。

社会的に質の高い保育士養成が求められ、勤務の継続も期待されている。学生が希望する進路を選択できるように、実習指導との連続性を意識した指導を模索していきたい。